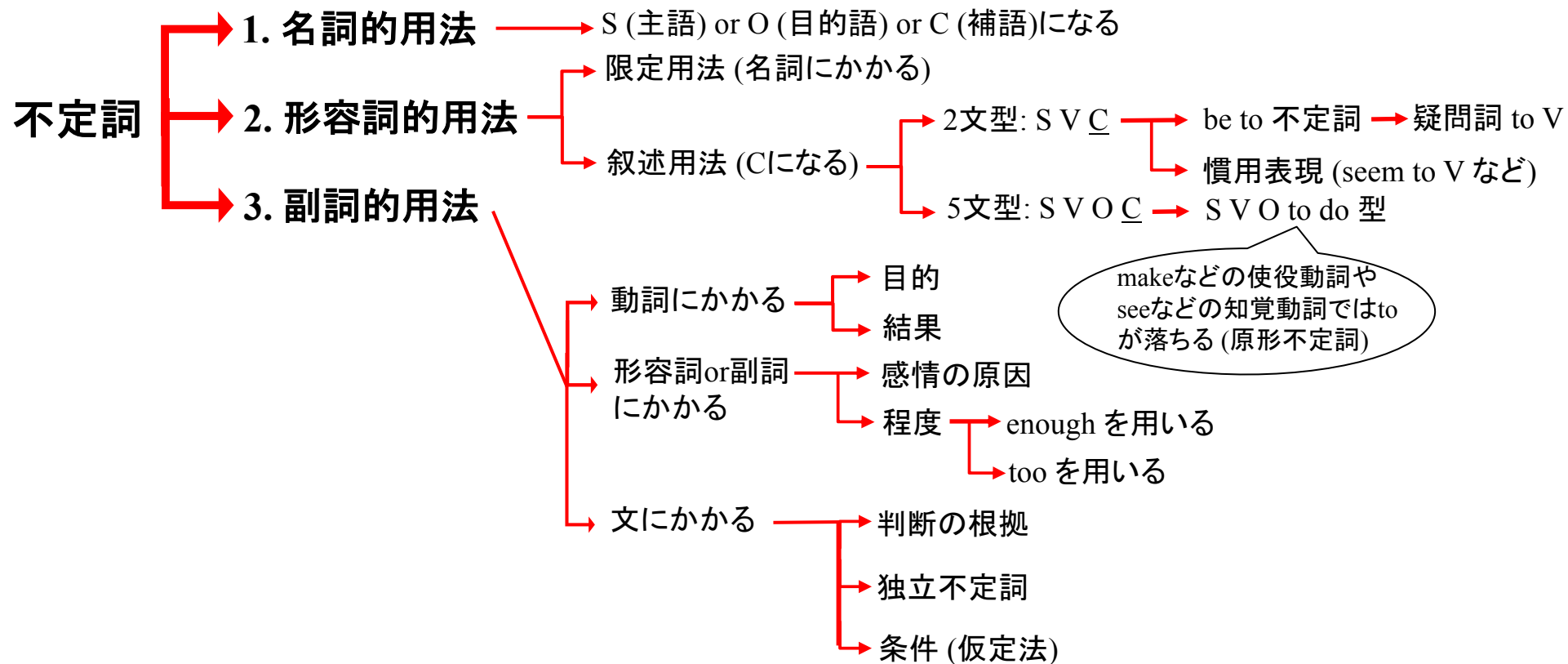


不定詞 (to + 動詞の原形) を分解



1. 名詞的用法
≡名詞「～すること」

① 名詞なので主語Sになれる
例) To use the machine is difficult.
S V C
「その機械を使うことは難しい」

② 名詞なので目的語Oになれる
例) I want to meet you.
S V O
「私はあなたに会うことを欲する」
↓意識すると...
「私はあなたに会いたい」

③ 名詞なので補語Cになれる
例) My hobby is to play tennis.
S V C
「私の趣味はテニスをする事だ」

④ 形式主語: 名詞が長いときはItで表して後ろへ持ってくる
例) It is difficult to use the machine.
(V) (O)

英語は頭でっかちな文(前が後ろに比べて長い文)をとても嫌う言語
例) keep A in mind 「Aを心に留める」
Aが長かったら後ろへ...

⑤ 「可難快危」を表す形容詞が使われているとき不定詞の目的語(O)を前に持ってくる事が出来る
例) The machine is difficult to use.
前へ! 欠落
「その機械は使うのが難しい」
か可... impossible (possibleは不可)
なん難... difficult, hard, easy
かい快... pleasant, comfortable, convenient
き危... dangerous
四字熟語で覚えよう

⑥ toの前にforを伴って意味上の主語が入ることがある
例) It is difficult for him to use the machine. 「彼がその機械を使うのは難しい」
(S) (V) (O)

⑦ It isの後にnice, stupid, carelessなど人の性質を表す形容詞が入る場合はforではなくofが入る
例) It is nice of you to help him. 「彼を助けるなんてあなたは素敵ですね」
元々は...
It is (a) nice (part) of you to help him. 「彼を助けることは君の素敵な一面だ」
aとpartが省略
不定詞で表わされる行為を通して人の性質を示す文

2. 形容詞的用法
(=形容詞:名詞を説明する)

① 限定用法
(名詞を修飾する)

名詞を修飾する訳し方「～するため(べきの...)」が基本

1. (S) (V)関係
例) I have no one (to help me)
(S) (V)
「私には助けてくれる人がいない」

2. (O) (V)関係
例) I have no one (to help)
(O) (V) 欠落
「私には助けるべき人がいない」

3. (前置詞のO) (V)関係
例) I have no house (to live in)
(前置詞のO) (V) 欠落
「私には住む(べき)家がない」

難 4. 関係副詞 (when, howなど)+主語」の代わり
例) It is time to go to bed now.
「もう寝る時間ですよ！」
例) What is the best way to learn English?
「英語を身につける一番良い方法はなんですか？」

難 5. 同格のto: 「～という」
例) You have the right to remain silent.
「あなたには黙秘する(という)権利があります」
例) You have no choice to see him.
「もう彼に会う(という)機会はないよ」

同格のtoには「元々toをとる表現の名詞化バージョン」がある
→それを踏まえて訳す
例1) He has the ability to do the job. 例2) His refusal to carry out the plan
be able to doが名詞化 refuse to carry outが名詞化
↓ ↓
「彼は仕事ができる」 「彼が計画の実行を拒否する(した)こと」

② 叙述用法
(補語Cになる)

2文型: S V C

「S=C」が成り立つ

③ be to 不定詞
例) You are to work hard. 「あなたは一生懸命働くべきだ」
C
to 本来の「未来」的な意味から派生して意味が5つ
覚え方 「ピートだけは業界人！」
ピ be き 義務 例) You are to work hard.
ー to よ 予定 例) She is to arrive at Kyoto today.
た う 運命 例) She was never to see him again.
け か 可能 例) The mountain was not to be seen.
し い 意図 例) If you are to do so, ~
は 人

⑤ 「自動詞+to do」で慣用表現となったもの
seem to V appear to V tend to V
「Vするように」 「Vするように」 「Vする傾向
思われる」 見える」 がある」 など

1. Vの時制がseem(ed)と同じ
V
→ 時系列
seem(ed)
seem(ed) to V 「Vするように思われる(た)」
例) He seems to be ill.
「彼は病気であるようだ」

2. Vの時制がseem(ed) よりも前
V
→ 時系列
seem(ed)
seem(ed) to have 過去分詞V 「Vだったように
(完了不定詞) 思われる(た)」
例) He seems to have been ill yesterday.
「彼は昨日病気だったようだ」

「be to」部分を助動詞とみなす
考え方もあり慣用表現として
捉えることも大切

④ 疑問詞+to V: 「(疑問詞の意味)+Vすべきか」
→ 元々は「間接疑問文+be to 不定詞」
例) I don't know what to do.
↓ 元々は...
I don't know what (I am) to do.
be to 不定詞 (義務)
「私は何をすべきか分からない」

主語が重複するとき「主語+be動詞」が省略される例は他にもある
接続詞の後の省略
例) When (I was) in America, I often played tennis.
↓ 主語同じ!
「私はアメリカにいた頃、よくテニスをした」

「前置詞+関係代名詞+to 不定詞」中の省略
例) I have no one with whom (I am) to talk .
↓ 主語同じ!
「私には一緒に話す(べき)相手がいない」

5文型: S V O C

「O=C」が成り立つ

⑥ S V O to do 型
「SはOがdoするようにVする」
例) I want him to study English.
「私は彼が英語を勉強するのを欲する」
↓ 意識すると...
「私は彼に英語を勉強して欲しい」

⑦ S V O do 型
Vがmake, have, let (使役動詞) やsee, hear, feel
(知覚動詞)のときはtoを省略する(=原形不定詞)
例) His mother made him study English.
「彼の母親は彼に英語を勉強させた」
受動態にするとtoが復活するので注意
例) He was made to study English by his mother.

3. 副詞的用法
(=副詞:名詞以外を修飾する)

動詞を修飾する

①目的「~するために」

例) I visited the place to meet him.
「私は彼に会うためにその場所へ訪れた」

「目的」の意味であることを分かりやすくするために、toの代わりにin order toやso as to (少し硬い表現)が使われることがある

②結果「(その結果)~」

例) He grew up to be a famous singer.
「彼は成長して有名な歌手になった」
例) He lived to be 90 years old.
「彼は90歳になるまで生きた」

「, never to ~」や「, only to ~」は「結果」の不定詞の目印!

例) He went out, never to return.
「彼は出掛けたが、二度と帰らなかった」

例) I tried again, only to fail.
「私は再度挑戦したが、失敗しただけだった」

形容詞 or 副詞を修飾する

③感情の原因「~して(感情表現)」

例) I am happy to see you.
「私はあなたに会えて嬉しい」

④程度: tooやenoughを用いる

tooを用いる

too (形・副) to V
「Vするにはあまりに(形・副)すぎる」
例) I am too poor to buy a bicycle.
「私は自転車を買うにはあまりに貧乏すぎる」
↓ 前から訳すと...
「私は貧乏すぎて自転車を
買うことが出来ない」

「肯定文のフリをした否定文！」
だと覚えておくことが大切!

enoughを用いる

<u>enough</u> (名詞) to V 「Vするのに十分な(名詞)」 例) He has <u>enough</u> money to buy a car. 「彼は車を買うのに十分なお金を持っている」	(形・副) <u>enough</u> to V 「Vするほど十分に(形・副)」 例) He is kind <u>enough</u> to help me. 「彼は私を助けてくれるほど(十分に)親切だ」 ↓ 前から訳すと... 「彼はとても親切なので私を助けてくれる」
---	---

「(形・副) enough to V」は「so (形・副) that S V」
や「so (形・副) as to V」に書き換え可能!

文全体を修飾する

⑤判断の根拠「~するとは...だ」

例) You were careless to make such a mistake.
「そんなミスをするなんて不注意だったね」

⑥独立不定詞: 独立した慣用表現となったもの

例) To tell the truth, S V 「実を言うと、S V」
例) To begin with, S V 「まず第一に、S V」
例) Strange to say, S V 「奇妙なことに、S V」
など

⑦条件(仮定法)「もし~なら」

例) To hear him speak French, you would take him for a French.
「彼がフランス語を話すのを聞けば、フランス人だと思うだろう」